

学校通信

けやき小

教育目標 確かな一歩



令和 8 年 2 月 2 7 日
西東京市立けやき小学校



e-mail e-keyaki@nishitokyo.ed.jp

今年度の確かな一歩

校長 前田 元

今年度の教育活動もあとわずかとなりました。報道では、冬季オリンピックが話題となり、明るいニュースが多く流れています。努力した力を精一杯発揮する様子は見ていて清々しいものです。できるなら、いつも、こうした明るいニュースに触れていたいと思ってしまいます。

とはいえ、私たちの営みは人が行うものですから、反省しなければならないこともたくさんあります。本校でも、今年度の取組を全教員で振り返り、来年度に向けて改善した計画を準備し、来年度に備えているところです。

この原稿を書いている日の新聞の一面には日本のフィギュアスケートのペアが金メダルを獲得したことが大きく報道されています。素晴らしいことです。しかも、前日のショートプログラムでは、今までになかったようなミスがあり、出遅れた中での逆転での金メダル。世界でも大きく取り上げられたニュースとなりました。

努力してきた人たちでさえ、こうした場面があるわけですから、子どもたちは、なおさらこうした場面に出会うことが多いのではないかと思います。大切なのは、そこから切り替えて次への一歩を踏み出すことなのだろうと思います。

実際に、フィギュアの二人の選手は互いに支え合い、気持ちを切り替えて見事に金メダルに輝きました。どうやったら、そんなことができるのかと思うほどです。

そこには、お二人で作ってきたルールがあるというのです。それは、振り返り方の工夫です。

自身の演技を振り返り、反省するわけですから、

「できなかったこと」「悪かったこと」を見つける作業になることが多いと思います。しかし、お二人は、「しっかりできたこと」「次の演技をよくするために工夫すること」とすべて前向きに考えられるように振り返り方を工夫して、互いにコミュニケーションをとってきたというのです。

これは、私にとって目からうろこのようなことでした。このように見方を変えることで、子どもたちも自分の成長を実感しながら、もっと良くなるために前向きに考えられるのではないかと感じたからです。子どもたちだけではありません。ご家庭でも私たち大人でも、今まで取り組んできたことの意味を見つけることができる方法だと感じたのです。

本校の教育目標「確かな一歩」を考えると、けやき小学校の子どもたちは、今年度確かな一歩を刻んでくれているのではないかと思います。一歩の大きさは問題ではありません。子どもたちができるようになったこと、成長したことのすべてが本校にとっての確かな一歩となります。今年度の終わりにご家庭でもお子様の確かな一歩を振り返ってみてはいかがでしょうか。

さて、今年度も間もなく幕を閉じようとしています。無事1年間の教育活動を終わられますのも保護者、地域の皆様の温かい御理解と御支援のおかげと心より感謝をいたします。特に卒業生保護者の皆様には6年間の長きにわたり学校への御支援を賜りましたこと厚くお礼申し上げます。卒業する子どもたちがこの世界を支える良き人に成長することを楽しみにしたいと思います。

令和7年度 西東京市立けやき小学校 学校評価報告書

学校教育目標		◎学び合う子(重点目標)□
	確かな一歩	○つながり、支えあう子□
		○健康でたくましい子

目指す学校像(ビジョン)		
【目指す学校像】	・「誠実に」「着実に」「確実に」児童の成長を促す教育を進める学校を目指す。～明日も通いたくなる学校を目指して～	
	◎「学び合う子」 互いの思いや考えを大切にし、学びを楽しむ子	
【目指す児童像】	○「つながり、支えあう子」 積極的に仲間や集団と関わり、共に成長する子	
	○「健康でたくましい子」 心身の成長と健康に興味関心をもち、毎日の学校生活に前向きな意欲のある子	
【目指す教師像】	・充実した授業づくりを第一として学びあう教師 ・「あったか先生」として地域・保護者に信頼される教師	

前年度までの学校経営上の成果と課題		
	(成果)コミュニティ・スクール、特別支援教室拠点校として、児童の特性や実態に応じ、地域との連携を生かした教育を進めてきた。	
	(課題)DX化を取り入れながら、保護者及び地域に教育活動を発信し、理解・啓発を更に図ること。	

	具体的方策	第1回評価		課題と対策
		努力目標 (教職員)	成果目標 (保護者)	
学びに向かう力の育成	・授業におけるユニバーサル・デザイン化を図り、児童にとってわかりやすい授業を実施する。	4	4	「けやきモデル」に基づき、児童が安心して学習に取り組めるユニバーサル・デザイン化した環境、授業づくりを一人一人の教員が意識を高めて行っている。また、校内授業研究の積み重ねを通して、子どもたちの思考を見通した教材、資料を準備することで、学習意欲が高まる授業展開に努めている。日常の子どもたちの変化や授業参観の場を通して、成果を示していけるよう引き続き研鑽を積んでいく。
	・学習でデジタル教科書やタブレット等のICT機器を適切に活用する。	4	3	タブレットの活用は、教員、児童共に年々習熟が深まり、活用の場面が広がっている。一方で、学習目的以外のルールを逸脱した使い方が、学校や家庭で見られたり開かれたりすることもある。慣れてきたことによる気の緩みがトラブルにつながることを防ぐため、適正な使用に関する予防的な指導を家庭とも連携して行っていく。
	・児童が読書に親しんだり、読書習慣を身に付けたりできるよう指導を工夫する。	1	1	年2回の読書週間における図書委員会によるお楽しみ企画や、「けやき応援団」による読み聞かせ、多読賞の表彰等を推進しているが、それらが読書の習慣につながっているという、教員、保護者の意識は高くない。教員も共に本への関心を示し児童との間で本の内容が話題に上る環境、また、児童が傍らに本を置き、すき間の時間等ですぐに本の世界に入っていけるような環境づくりに、教員間で共通理解、試行錯誤を重ねながら、粘り強く当たっていく。
人間関係力の育成	・「西東京市子ども条例」や学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止に取り組む。	4	4	今年度も「学校いじめ基本方針」については、1学期の保護者会で、全学年で内容の説明を行った。繰り返し伝えていく成果があり、保護者への周知は進んできている。今後も保護者の相談に丁寧かつ迅速に対応し、いじめの早期対応を心掛ける。
	・学校では決まりにそったけじめある生活が送れるよう指導していく。	4	4	おおむね学校ではけいじめのある生活が送れている。今後も全校朝会や学級指導において、けやき小のきまりや月目標を示して意識させる機会を設定し指導していく。
	・気持ちのよい挨拶ができるよう挨拶を励行する。	3	3	「子どもは気持ちのよい挨拶ができる」と肯定的に感じている保護者が多い。子どもたちが学校内外においても、気持ちのよい挨拶ができるよう引き続き道徳や学級指導で挨拶の大切さを子どもたちに考えさせ、実践させていきたい。
健康でたくましい子の育成	・家庭と連携しながら「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着を図ったり、運動の習慣の定着を図ったりできるよう工夫していく。	3	3	夏季休業中に全児童を対象に行った「もぐもぐ・すやすや・びかびかカード」の取り組みを通して、生活習慣の意識向上に繋がった家庭が多かった。運動の習慣の定着を図るため、体育の年間指導計画を見直し、6年間の見直しをもつこと、系統性を意識することを重点におき、指導にあたっている。また、年間を通しての運動週間「長縄、短縄、持久走」の取り組みも継続して行い、様々な運動経験をさせたり、運動の継続を意識させたりしていく。
	・児童の特性や実態に即した指導、特別支援教育に対する児童、保護者、地域の理解・啓発を図る。	4	3	校内委員会のメンバーを中心に、児童の情報交換を密にすることで、配慮・支援の必要な児童に対して、組織的な対応を行っている。継続していく。
働き方改革	・教職員は丁寧に対応し、誠実に相談等に応じるよう心掛ける。	4	4	保護者からの評価、教職員の評価ともに肯定的回答が90%を超えていた。これからも児童の成長を願い、協力して学校教育を行っていくよう心がけていきたい。
	・教員は授業や教材の工夫をして、日々の授業の充実に努めている。	4	4	保護者からの評価、教職員の評価ともに肯定的回答が90%を超えていた。授業は学校生活の中心であり、子どもたちの意欲が継続していくことができるように授業や教材の工夫は大切であるととらえ、これからも授業の充実に努めていくようにしたい。
信頼される学校	・日常的に施設や設備の安全対策や事故防止を適切に行い、より現実的な状況下での避難訓練を実施する。	4	4	「学校施設・設備の安全対策や事故防止、避難訓練に取り組んでいる」という項目において、保護者からの肯定的回答は97%であった。今後も安全な環境の中で教育活動ができるよう、安全対策や避難訓練をしっかりと取り組んでいく。
	・地域、学校運営協議会と連携し、学校関係者評価の実施・公開、教育方針や日常の様子等を学校だより、学年だより、学級だより、ホームページなどにより適切に情報発信をする。	4	4	「学校は地域と連携し、教育方針や日常の様子等を『すぐる』、ホームページなどにより情報発信をしている」という項目において、保護者からの肯定的回答は97%であった。今後も、地域と保護者との連携を図るとともに、そのために、日常の様子等を適切に配信・発信することを心掛けていく。

